

楽学ニュース

【編集・発行】

特定非営利活動法人

あだち学習支援ボランティア「楽学の会」

【事務所】市川茂敏方

〒123-0853 足立区本木1-10-11

ホームページ <http://gakugaku.web.infoseek.co.jp/>

☆☆ 祝「楽学の会」創立10周年 ☆☆

= さらなる飛躍へ向けて!! =

区民が学ぶ・自らも学び輝き・創りだす



綾瀬時代の生涯学習館



設立当時の交流会



NPO 設立祝賀会にて (平成15年)



他団体との交流会風景



生涯学習ボランティア養成セミナー



ふるさとづくり賞受賞 (平成17年)



10年を振り返って、これからの期待!!

創立10周年を迎えて、今後の『楽学の会』に期待すること

楽学の会が創立10周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

平成8年の発足以来、生涯学習講座の運営ボランティアを始め、自主講座を企画・開催されるなど、「区民主導の新たな学びのしくみづくり」を目指し、今日まで活動されてきました。そして、会員の皆様の学びづくりへの真摯な取り組みと熱意が、区民のための区民による学習講座として「あだち区民大学塾」の実現につながったものと、深く敬意を表する次第であります。

さて、社会の急激な変化に伴い、区民の学習ニーズは多岐にわたり、広い視野からの対応が求められています。足立区ではこれまで以上に区民・NPOとの連携や協働を進め、区民の生涯にわたる学習活動の推進に取り組んでまいります。

こうした中で、楽学の会におかれましては、これからの時代の「新しい学びのしくみづくり」を構築する核となって、さらなる力を発揮していただけるものと期待しております。

終わりにになりましたが、これまでのご尽力にあらためて感謝申し上げます、今後益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



足立区教育委員会
教育長 内藤 博道

創立10周年を迎えた「楽学の会」 ー学びの支援とみずからの学習を更に目指そうー

代表理事 市川 茂敏

会の名称を設立に参加したメンバーの提案をもとに、「楽学の会」と名付け出発して、早くも10周年を迎えた。その歩みは決して平坦ではなかったが、多くの会員の思い入れで会の基盤はそれ相応に築かれたと思う。これまでを振り返るとき感慨無量である。



この間の活動を振り返ると、草創期は生涯学習館（当時）が開催する講座・講演会の運営ボランティアという学習支援活動。この活動が現在の受託講座などを運営できる基礎になっている。ダメもとで応募した東京都ボランティア基金からの助成金で、初めて企画・開催した講座「あなたが探す21世紀の『生きがい』」は区民から大好評。その達成感は今も忘れられない。これがきっかけで講座開催という区民への学習機会の提供が始まった。実施してきたその数約20講座。「あだち区民大学塾」の企画・運営にもつながっている。

発足数ヶ月後に創刊した「楽学ニュース」は、会の活動などの伝達者として100号を超えた。夢は学習支援の情報紙として全国への発信を目指して欲しい。

会員の学びとしては、交流会（当時）で「ボランティアで豊かな人間関係」（12年版「国民生活白書」）について学習したのが初めて。昨年実施した「指定管理者制度」学習会の原点であろう。今後も社会・地域の課題に向きあい提言していただける学習会を続けよう。

住民主導の生涯学習支援活動という時の流れの中で、15年4月NPO法人格を取得したが、これを契機に活動や事業の幅を一層広げてきた。多くの皆様の温かいご指導・ご支援の賜物であり、「感謝」の二文字を記したい。その過程でネットワークの大切さを経験した。全国の学ぶ仲間などの相互交流、情報交換の輪を今後も広げたいことを望みたい。

創立11年目に入る私たちは、夢を持って、自己を磨き、視野を広げ、本当の自立ということを考えながら、区民への学習機会の提供活動を、更に高らかに掲げて進もう。

これからの「楽学の会」に期待する

足立区教育政策課教育政策担当係長
森 太一

「生涯学習ボランティアって、なにををするの？
その定義は？」

十年前、「生涯学習ボランティア養成セミナー」の多くの受講生から問い合わせを受けました。当時、イメージしやすい英会話やピアノを指導する“教育ボランティア”とは異なり、「区民の学習活動を支援するボランティアですよ」と説明しても、説明する方もされる方もピンと来なかった時代でした。

それでも「学習支援ボランティア」活動が試行錯誤の中で順調に、かつ着実に展開されていきました。十年前には、会が法人格を取得して「あだち区民大学塾」のような協働事業をするなんて誰が予想していたのでしょうか。楽学の会の皆さん一人ひとりのボランティア活動に対する熱意と努力、そして会の活動の魅力が、十年間活動し続けてきた原動力となっていたのでしょう。

受付が始まる前に「ニコニコ笑顔でこんにちは」のミーティングをやって、万全な体制で臨んだこと。学習フェスティバルの講演会の共同企画で、皆で毎日図書館通いをしてテーマや講師調べをしたり、企画コンテストで批評しあったりした企画トレーニング。書ききれないほどの「思い出ドラマ」の1シーンが脳裏によみがえります。「思い出ドラマ」も楽しいのですが、将来のことを考える方がもっと楽しい。たぶん、私も楽学の会の皆さんも、試行錯誤の活動の中でも「未来予想図」を頭に描いていたから楽しかったのかなと思います。

生涯学習センターが開設したら…。NPO 法人を取得したら…。皆さんと共に未来予想図を創り、それを楽学の会の皆さんと共に実現してきたことは私にとっては一番楽しく幸せだったような気がします。

設立から十年が過ぎました。「区民の学び」を取り巻く状況は変わりました。もちろん、法人となった楽学の会も期待度や社会的地位は劇的に変化しました。

さて、この後どうするのか？大切なことは、この会は「学習支援ボランティア」の集団であることを忘れないということです。そして、これからの未来予想図を創る中で、あらためて「学習支援ボランティアって何ををするのですか」という問いに答えていくことではないでしょうか。自然と本会の新たなミッションや実践活動の道すじが見えてくることでしょう。

十年後、現時点では思いつかない偉大な活動を実現しているであろう「楽学の会」に大いに期待をしています。

ご挨拶

足立区学校地域連携課 担当係長
本間 真代

熱い眼差しと白熱した議論。「エッ！こんなに凄いの？」これは私が区民大学塾の企画会議に初めて参加した時の率直な感想です。真剣な表情で意見を交わす姿に、会の皆さんの大学塾に対する熱い思いが伝わってきました。こうした会議ができるのも、10年という歳月の中で培われてきた豊富な経験や実績があるからだと思います。

一人でも多くの区民の方がこの大学塾を通して自分自身の「生きがい」を見つけ、“生涯現役”の区民として地域社会で活躍して頂く。このような有意義な事業を皆さんと協働で実施できることをうれしく思います。楽学の会の皆さん、よろしく願いいたします。

祝 辞

先達の喜びと責任を楽しむ

顧問
(財) 日本生涯学習総合研究所理事
伊藤 俊夫

日本中の関係者が楽学の会に注目し、今では会の10年にわたる活動の成果が全国各地に波及して、大きな花を咲かせつつあります。

地域でのボランティア活動を取り上げた、話題のビデオ教材「大人の居場所づくり」＝(株)リュック製作＝を見ますと、退職した人達は、学習などで自分の才能を見つけて磨く自分さがしとか、豊かな人間関係を築く仲間さがし、あるいは自分が社会に役立っていると自覚できる役割さがしの場を求めているのが、とてもよく理解できました。この自分さがし、仲間さがし、役割さがしの活動こそが、時代が求める生きがい追求の生涯学習です。

先駆する者としての楽学の会は、時代が必要とした生きがい追求の生涯学習の場を、全国に先駆けて創出し、人びとに提供してきました。この業績は素直に喜び、誇るべきものです。それだけに、結成10年を踏切台にして、新たな知恵と汗でさらなる挑戦をされ、先達としての喜びと責任を楽しめますよう、期待しています。

「楽学の会」の魅力

顧問
文化ボランティア・コーディネーター
大久保邦子

辞書をしっかり読むとそれは納得のいくことだったが、culture という単語が、文化・教養とともに“耕す”という意味があることを知り、感動したのは中学生のときだ。以来、私は文化という日本語ではなく、なぜか culture という言葉に惹かれている。子育てを皮切りに地域活動にのめりこんでいったのも、地域を耕すことが夢であり、目的だった。

便利になり、豊かになった現代の地域社会は、放っておくと草も木も生えない都市化砂漠になる。人が人らしく生活する空間には、土を耕し種を蒔き、水をまいたりする、支え合い・慈しみあいの行為が必要である。それが学習であり、活動だと思う。

「楽学の会」のこの10年をみていると、そこに理想の仕組みがみえる。行政の支援をきっかけに、理想のミッション(使命・目的)を高く掲げながら、自立し、地域社会のあり方を提案し

実践する。「うまいな～！」と思うのは、看板通り、楽しく学び合いながら無理なく確実に進化している点だ。このような活動に不可欠なのは、高いミッションと豊かなパッション(情熱)と思うが、「楽学の会」にはそれがある。ぜひとも、楽しく学び合いながら地域社会を耕す日本一のパイオニアになってほしい！

目覚め分かちあう学びへ

顧問
社会福祉法人世田谷ボランティア協会理事長
昭和女子大学教員
興梠 寛

『楽学の会』創立10周年に際しお祝い申し上げます。

人びとに豊かな学びのチャンスをつくりだそうと、志を同じくする人びとの手で初々しく産声を上げて誕生した会は、早いもので10年の軌跡を刻みましたね。

市川茂敏代表理事をはじめ、会の運営にあたってきた皆様のボランティア・スピリットあふれる行動力と、深い友情の絆に心から敬意を表します。

世界のボランティア活動家にとって、草の根活動の始祖と尊敬されているマハト・マガンジーは、ボランティアの理念を「サルボダヤ・シュラマダーナ」(Sarvodaya Shuramadana)という言葉で表現しました。サンスクリット語のこの言葉は「目覚め、分かちあう」という意味です。その言葉のとおり「学ぶ」ことは自己や社会に「目覚める」ことであり、知識を習得することにとどまらず、学んだ成果を他者と「分かちあう」ことです。

まさに「楽学の精神」は、共生社会のために行動する覚醒への道を歩むことであります。これから、さらに10年へ。志を同じくする人びと同志の皆様の飛翔を、心からお祈り申し上げます。



楽学の会創立 10 周年に寄せて

顧問
川村学園女子大学 教授
斎藤 哲瑯

創立 10 周年を迎えられ、心からお祝申し上げます。

“住みよいまちづくりを自分たちの手で”と、あだち区民大学「生涯学習ボランティア養成セミナー」を受講した有志の方々によって立ち上げられたのが平成 8 年のことでした。当時のことを今でも鮮明に覚えています。

今日、社会的・地域的な課題が多く発生していますが、それらを様々な角度から掘り下げるとともに、地域の人々にも知ってもらう必要があるとの考えから、「自主講座」「生涯学習ボランティア養成セミナー」「あだち区民大学塾」などを計画的に実施してこられました。そのご努力もあって会員数も 100 名を超えたとうかがっています。

最近、人間関係の難しさや知恵や文化の断絶などが指摘されて、また、国民の 6 割を超えて「心の豊かさ」を求めているなかで、「楽学の会」は、まさに時代の先魁であり社会からも高く評価されています。

これまでのご努力に敬意を表しますとともに、皆さん方の知恵と努力によってその歩みがさらに確かなものとなるよう、心から願っています。

メンバーの発達と会の充実

顧問
桜美林大学 教授
瀬沼 克彰

地域を基盤にした区民の自主グループは、3 つの存在意義を持っている。1 つは、メンバーの人的発達、自己実現に役立つこと、2 つは、グループの発展と充実、そして、3 つ目は、地域(区)の発展、まちづくりへの貢献である。本会が 10 年続いてきたということは、この 3 つの目的が達成されてきた故である。

一般論では、自主グループは、生まれるのは容易だが、3 年の間に 8 割は解散になる。5 年、10 年維持されるのは、1 割程度である。それだけに 10 年継続してきたことは、貴重なことである。

参加しているメンバーは、継続年に比例して人的に成長し、力量を高めていることは確実である。本会の名は、東京圏で高まっている。区民への貢献と、「まちづくり賞」に入賞する実力になっていることを喜びたい。

楽学の会に期待すること

賛助会員 企業研修講師、フリーランス
ライター、キャリアカウンセラー
木元 栄子

この度は 10 周年、誠にありがとうございます。NPO 法人がこのように長く続いたということは、スタッフ、会員の皆様の大変な御苦勞、努力があったことと、お察し致します。

さて、今後私が期待したいことは、2007 年の団塊世代の大量退職時期を踏まえ、「定年退職後の地域での生き方、関わり方」について、スタッフの方々の経験を元に講座を開いていただきたいということです。御会のような既存の会に入会する時の注意点、また新しくボランティア団体や NPO 法人を立ち上げるための注意点など、様々な角度で講座ができるのではないかと思います。

また 23 区内でもフリーター率の高い足立区において、若者の就業問題は非常に重要です。長年働いて来た方々が仕事探しに悩む若者に経験談を話すような講座を設けてはどうかとも思います。

楽しく学ぶ場を作り出す御会には、定年後を楽しく学ぶだけでなく、さらに自らが行動できる人を養成する場になっていただきたいと期待します。

楽学の会に期待すること

賛助会員
株式会社楽研究所代表取締役
(財)横須賀市生涯学習財団評議員
崎山 みゆき

～シニアの視点を企業の若年層教育に～

楽学の会の皆様には、敬服の念をこめてお祝いを申し上げます。

幸多きこの場をお借りして、皆様の、他の組織とは一味違った生涯学習支援についてご紹介させて戴きます。「職能開発」という分野です。

現在、私は企業・自治体などで「異世代間コミュニケーション能力開発」という研修をしています。昨年、大手企業の若年層教育の中で、地域の高齢者顧客が増加しているのも、その方とのコミュニケーション能力をアップさせたいという依頼がありました。そこで会の皆様に「シニアインストラクター」と称し、接客実習をして戴きました。傾聴方法・身だしなみなど、様々なシニアとのコミュニケーションについて、その場でコメントをするのです。企業側からは、大変喜んで戴きました。もちろん、シニアなら誰でもできるというものではありません。「教育」「シニアのライフ

スタイル」「地域」というキーワードを理解していないと不可能です。よって「楽学の会の方」なのです。

会の皆様は、生きがい作りだけで終わらない、様々な可能性をお持ちだと思います。今後は企業内教育という分野でも、シニアの視点を活かしてのご活躍を期待しております。

「楽学の会」に期待すること

賛助会員
寺内 由美

私は当会の賛助会員で、会の運営や活動に関心を大いに持っています。16年度の「日本語ボランティア支援講座」に参加し、日本語サークル「くりはら」を立ち上げ区内在住の外国人に日本語を通して係わるようになりました。区から講座を受託された「楽学の会」のサポートは、講座期間はもとより立ち上げ後も、ボランティア活動の状況に気を遣っていただき、また「くりはら」を外部に紹介する機会も度々作っていただきました。

今後は区から通年受託された講座がどのような活動をしているか、共通する話題の話し合いの場や、さらに発展的に必要とする日本語ボランティア活動があれば、区に企画申請をしていただくなど、歩み出した生涯学習のボランティア活動を区行政とどう意義があるものにしていくか、内容の深さを考慮していただけたら有難いと思います。

創立10周年おめでとうございます。
賛助会員としてお祝いを申し上げます。

賛助会員

平木 トミ子

私は足立シニア・ピア・カウンセラーの一期生で、現在傾聴ボランティアとして、一人暮らしの高齢者の方を訪問し話し相手をしています。また足立区社会福祉協議会後援の、のびのび親子ひろば「みんなのおうち」に関わっています。

この活動を通して多くの核家族の方、一人暮らしの高齢者の方の存在を知りました。その方々は、話を聞いてくれる人、相談にのってくれる人、を欲しています。場合によっては専門家のアドバイスも必要としている姿を、日常的な活動の中で見受けられます。大きな悩みをお持ちの方なら、なおさらと感じています。私は人の悩みは、人と接する事、お互い支え合う事、お互いを認め合う事で軽減されていくものと思っています。

そこで様々な立場の方が、新しい出会いを得られる場、良質の“人との関わり”が持てる場を、より多く提供して頂きたいと希望します。

また新しい学びとの出会いも、心の支えになると思います。講演、体験活動、表現活動、ワークショップ等と色々な形式の学びの場をお願いします。

そしてこれからも足立区民の学びのリーダーとして、楽学の会が発展する事を期待します。

あの日、あの時

綾瀬から出発した楽学の会

木口 千恵子

10年ひと昔というけれど、綾瀬にあった足立区生涯学習館で「学習ボランティア養成セミナー」(1期)が開催されたのは、まさにひと昔まえの事。当時の私を振り返ってみた。

受講したきっかけは、館内に放送大学学習センターがあり、放大生の私にとって参加しやすかったのと、修了すると運営ボラだけでなく講座・講演会の企画などの活動ができるという点に興味を持ったからだ。

講座が終わると、自主グループが結成され、「楽学の会」として歩き出した。私も若かったナァ～。会運営のメンバーに加わって、面接授業をやり練りして楽学の会議に出たり、図書室でレポート作成や試験勉強のあい間に『楽学ニ

アウトを仕上げたり、時には講座・講演会の運営ボラもして。キャンパスライフとボラ活動、忙しくも充実した日々だった。

学習館主催の講演会の企画、東京都の助成を受けた自主講座の開催、NTTドコモとの共催で実現した講座など盛況裡に終え、皆で達成感を味わったのは記憶に新しい。

会の拠点は千住学びピアに移り、放大も同様に移転した。その頃、私も必要単位を取得して卒業を迎えたわけである。

以上、綾瀬時代の思い出。



思いで

大藤 久子

平成7年、生涯学習館で、学び推進センターが始まり、「あだち区民大学」事業で6コースが開かれました。知的冒険セミナー、現代的課題セミナー、学びあい推進セミナー、生涯学習ネット、生涯学習養成セミナー、特別企画講演会で、社会教育主事の森太一氏などの指導を受けました。

私は、平成8年生涯学習養成セミナーを受け、ボランティアに参加することになりました。企画された講座に会員の人達が多くボランティア活動として参加しました。会場に一般の人達が集まると、受付、講師対応、司会進行と皆さんの対応に入ります。一度だけでなく、区民の皆様が次につながる講座を受けられるように気配りは大変です。講演会の運営に携わるボランティア活動だけに追われ、数々の支援を受けながら牛歩の繰り返しが続きました。学ぶことの楽しさを知り、自分達で次の機会には自主講座・講演、企画ができれば良いと思いつつ10年が今、来ました。今、それが現実となり、NPO法人「楽学の会」ができました。また、「あだち区民大学塾」は区民の先生の講師でできるようになりました。皆様の力がバネになり発展することを願います。

まず一步、地域を歩き、講師さがし！

都知事から「認証書」が届いた時の感激

瀬田 佳男

平成15年3月27日、NPO設立認証申請者であった故・中山義男さんから嬉しい連絡がありますと電話をいただきました。今朝、東京都知事の石原慎太郎名で「楽学の会」のNPO法人「認証書」が書留便にて配達されましたとのことでした。早速、関係者に連絡しましたが、会員が心から喜んで下さいました。

平成14年1月に「NPO 学習会」を立ち上げ、8回の学習会を開催しました。続いて「法人設立準備委員会」に移行し、8回の設立準備委員会を開催しました。設立の諸準備を完了し、平成14年12月10日に東京都NPO法人係に設立認証申請書を提出し、平成15年3月25日付で認証されました。

法人格を取得していなければ、足立区役所、(財)足立区生涯学習振興公社等からの「受託事業」の契約は出来なかったし、「あだち区民大学塾」もあり得なかったと思っております。

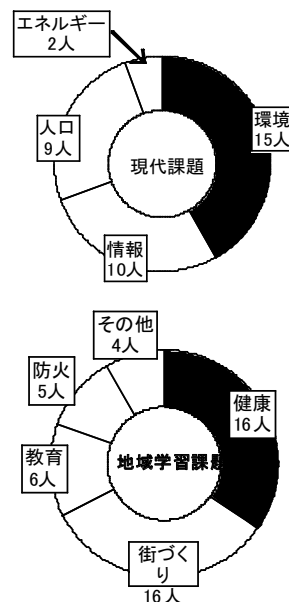
あの日あの時

染野 絢子

私のあの日あの時は、今から5年前、初めて楽学の会が企画して運営を行なった「あなたが探す21世紀の“生きがい”ー地域社会とのつながりの中でー」です。

全てに前例がなく、あるのは、運営のプロセスと、その中で見て学んだ講座の内容と経験。しかし、実際に紙に起こして企画書の提出をするにも、雛形からの作成や、いざ講師交渉の際に発送する依頼状の内容はどのようにするのか、さらに、講座にあった講師をどのように探してくるのか、チラシのデザインから配布場所の交渉など、段取りを進める中で、今まで、受付や誘導、司会と言った、いわば作られたものの上乗せのボランティア経験では見えなかった様々な問題にぶつかり、メンバー同士の意見交換、半ば衝突に近いものを感じながら・・・、森さんの力をお借りし、何度も(毎晩といってもよいほど??)重ねた会議、わずか5年前の話です。今となっては、嘘のような話に聞こえますがこの5年間の楽学の会の進化は物凄いものだと感じております。

今回10周年を迎えるにあたり、様々な方が関わって作り上げてきたこの会の歴史を今後10年後、20年後、永遠に絶やすことなく受け継いでいけたらと思います。



10年間のメモランダムをまとめて

相馬 義人

「楽学ニュース」第1号から第107号まで通読して、「楽学の会」の活動のあゆみを辿ることができた。

生涯学習館時代から現在まで10年間、一貫して「会」の育成と発展のために、暖かいご指導と“つねに前進！”の励ましをいただいた森さん（森 太一社会教育主事）に心からの敬意と感謝の意を表したい。また、市川代表の並々ならぬ信念に深く驚嘆させられた。一方、今日までに築いてきた「会」の実績の数々を思い起すと、様々な理由で会をやめてしまった仲間の顔やエピソードが頭をかすめ感慨無量であった。

社会環境が変化しても、ボランティアの原点をわすれずに、情報を共有し、会員のスキルの交流を活動の中に活かしていきたいと思う。

女性会員の参画をもっと

木島 叔子

いま中高年の女性が元気です。旅先でも、芝居やコンサートやカルチャーでも女性が多く見られ、「楽学の会」の各種講座の受講者でも、女性の数は平均すると7割に達します。

女性区民の学びへの意欲には敬意を表するものですが、もちろん男性諸兄には心より歓迎の意

を表することはいうまでもありません。こうした区民のニーズに応えることが私たちの使命であり、学びを共有できる喜びを、1人でも多くの会員と分かち合いたいものです。

「楽学の会」では、現会員88名で、その半数以上が女性です。しかるに・・・です。先日の総会では、女性の出席は3分の1、各種講座の運営ボランティアや各部局の活動への参加率も、男性にはるかに及びません。

女性は家庭や地域での出番が多く、会活動への参加に困難もともないますが、あなたの力が求められているこの10周年を機に、もう少し踏み出してみませんか。

あだち区民大学塾が順調に 進行し始めてきた

安藤 寿

自分は鹿島氏と組んで司馬遼太郎講座を企画し、岡田さんの紹介で中島勝正先生に受けて戴いた。開催は平成17年12月、3、10、17日。

受講者も予定数を満たし、木島さんのアドバイスを受け初めて司会をした。司会者席から見ていると受講者の反応が良くわかる。企画をした講座の内容に付いては自分もそれなりに勉強しないとイケない。是が「楽学」の本質かも知れない。良い経験であった。

平成18年度「あだち区民大学塾」 第2ステージ講座のお知らせ

講師も区民、講座の企画・運営も区民の協働型学習事業です。今回は下表に示す3講座を開催します。（詳細は「ときめき」6月1日号に掲載されています）。

講座名	内容	日程	区民講師
今どきお葬式事情	葬儀の歴史と最近のお葬式事情に学ぶ	6/22(木)、6/27(火)、 7/3(月) 全3回	(有)根岸商店代表取締役 根岸 藤男氏 ほか
あなたの家は地震に耐えられますか？	木造戸建住宅の耐震診断と対策を考える	6/29(木)、7/6(木)、 7/13(木)全3回	一級建築士・一級建築施工管理技士 松崎 孝平氏
「日本茶」入門	お茶を知り、愉しくおいしく味わうコツを学ぶ	6/30(金)、7/7(金)、 7/14(金)全3回	日本茶インストラクター 奥村 静二氏 奥村 恵子氏

開催時間は各講座とも19時～21時です。

問合せ先：あだち区民大学塾 事務局 電話03-5813-3759（平日午後1時～5時）

『楽学の会』10年の主なあゆみ

平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8年2月 あだち区民大学「生涯学習ボランティア養成セミナー」(全7回)(生涯学習館)開催 ・ 5月 「あだち生涯学習ボランティアグループ『楽学の会』」が発足〔代表: 関根友昭〕 ・ 6月 生涯学習館開催のセミナーに運営ボランティアとして初めて参加、活動開始 ・ 7月 全体会で会則の制定が承認される(会費年額: 1200円等) ・ 9月 「楽学ニュース」創刊号(A4・2頁)発行(編集発行: 事務局委員会) ・ 2月 総会 9年度役員選出〔代表: 今 英章〕。会則一部改正(会費年額: 2000円等) ・ 2月 「生涯学習全国ネットワーク集會」(東京国際フォーラム) 今・大藤・木口・安田・市川参加
平成9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 全体会 「NPOとNPO法案について」 学習館社会教育主事: 森太一氏 ・ 9月 「あだち学びピア'97」講演会の司会を初めて「楽学の会」のボランティアが担当 ・ 10月 全体会「足立区の生涯学習行政」を学ぶ(講師: 生涯学習館長 鯉沼正弘氏) ・ 10月 足立区郷土博物館見学 ・ 11月 生涯学習ボランティア交流会ーヌックボランティアフェスティバル(国立婦人教育会館) 8名参加 ・ 12月 全体会「他のグループの学習経験を聞く」(講師: 足立・賢治の会会長 神家満茂氏) ・ 2月 総会 10年度役員選出〔代表: 市川茂敏〕 会則一部変更(全体会→交流会に名称変更等)
平成10年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 交流会「21世紀における足立区の生涯学習社会の望ましい姿(答申)」を学ぶ(講師: 区教育委員会 計画主査 細谷宏氏) ・ 9月 交流会「足立区の災害対策」を学ぶ(講師: 区災害対策課長 橋本 弘氏) ・ 11月 交流会 会員向けの企画講座「話し方講座(1)」(講師: ジャパン・スピーカーセンター 阿部紀子氏) ・ 12月 交流会 同上 「話し方講座(2)」(講師: 阿部紀子氏) ・ 3月 総会 11年度役員選出ほか〔代表: 市川茂敏〕 <p style="text-align: center;">「楽学ニュース」第30号記念号(A4・8頁)発行(足立区教育振興公社理事長などから寄稿)</p>
平成11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 交流会「足立区における生涯学習施策の取組みーその現状と課題ー」を学ぶ(講師: 細谷宏氏) ・ 8月 交流会 会員向けの企画講座「荒川の今とこれから」(講師: あらかわ学会 齊藤光明氏) ・ 10月 交流会 同上 「話し方講座(3)」(講師: 阿部紀子氏) ・ 11月 交流会 同上 「話し方講座(4)」(講師: 阿部紀子氏) ・ 12月 交流会 同上 「足立を知ろうー千住ー」(講師: 区郷土博物館専門員 塚田博氏) ・ 2月 「生涯学習ボランティア養成セミナー」の中で、初めて「楽学の会」の活動事例の発表 ・ 3月 総会 12年度役員選出
平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 東京都社会福祉協議会ボランティア基金からシンポジウム開催経費の助成金の交付が決定 ・ 4月 (財)生涯教育振興公社が(財)足立区生涯学習振興公社に改組 ・ 6月 交流会「身障者と健常者との共生ーこれからのバリアフリーー」を学ぶ(講師: 千葉県身障者相談員協議会副会長 空岡信耶氏) ・ 7月 足立区生涯学習総合施設・足立区生涯学習センター(愛称: 学びピア21)オープン <p style="text-align: center;">「楽学だより」第1号(A4・2頁)発行(発行: 「楽学の会」 編集: 広報)</p> <p style="text-align: center;">「楽学の会」の活動を対外的PRのために作成 センターオープニング講演会で配布</p> <p style="text-align: center;">社会教育団体として、区教育委員会、(財)足立区生涯学習振興公社から認可される</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月 交流会 グループディスカッション「新センターでのボランティア“何がしたい・何が出来る”」 ・ 9月 交流会 「今後のボランティア活動の進め方」についてのフリートーキング ・ 10月 交流会「同上(2)」の結論として、活動の2本柱(自主企画講座の推進、積極的に運営ボランティア活動に参加)を参加者で再確認 <p style="text-align: center;">「東京における生涯学習関連機関の交流会」(主催: 生涯学習関連機関交流連絡会)に4名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1月 初めての自主企画講座「21世紀のあなたが探す「生きがいー地域社会とのつながりの中でー」(全3回)を開催(前記東京都社会福祉協議会ボランティア基金の助成金により実施) ・ 2月 2月交流会 NPO法人すみだ学習ガーデンとの交流会(生涯学習センター)
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 総会 会則一部改正(組織の大幅な改正: 代表1名。副代表4名。4Gの設置等) ・ 6月 「社会教育施設ボランティア交流会」(主催: 社会教育施設ボランティア交流会事務局)に参加 ・ 8月 生涯学習センター所長との懇談会 海老原所長、森主事、市川他10名 ・ 10月 「東京における生涯学習関連機関の交流集會」(主催: 前記と同じ)に5名参加 ・ 11月 自主企画講座 「携帯電話と私たちの暮らし」(全3回)開催 ・ 1月 NPO学習会を実施(全8回 平成13年6月終了) <p style="text-align: center;">「あだち広報『ズームアップ』(1月5日号)」に自主講座開催等の活動状況が掲載される</p> <p style="text-align: center;">世田谷ボランティア協会訪問・施設見学・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月 生涯学習センターの壁新聞「学び見つけた」(毎週2回発行)の作成に参画 ・ 交流会 「足立区の生涯学習」を学ぶ(講師: 区教育委員会社会教育主事 高井 正氏) ・ 3月 「ボランティアコーディネーター研究集會」(主催: 社会教育施設ボランティア交流会事務局)参加 ・ 交流会 「今すぐ使えるグループ運営に必要なコミュニケーション術」学ぶ(講師: 自分楽研究所崎山みゆき氏)

平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 会員向け企画講座「パソコン入門講座」(全3回)(講師:原田 進ほか) ・ 7月 NPO法人設立準備委員会設置(全8回 平成14年10月終了) ・ 7月 足立区NPO活動支援センターが設置される ・ 7月 NPO法人「すみだ学習ガーデン」訪問 ・ 9月 区民企画講座「さあ始めよう!地域活動~女が活躍する~」(全4回) ・ 10月 NPO法人設立総会で法人設立の認証申請を承認
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 NPO法人「あだち学習支援ボランティア「楽学の会」が認証される(東京都知事) ・ 5月 第1回通常総会(代表理事:市川茂敏)、設立記念パーティー開催 発足記念講演会「江戸庶民の暮らしと文化ー江戸人の知恵と心に学ぶー」(講師:江戸東京博物館館長:竹内 誠氏) ・ 6月 施設見学 柏市「まなびボランティアセンターちば」「県民プラザ」 ・ 7月 区民企画講座「どう働く?男と女ー経済不安の中でー」 ・ 8月 施設見学と交流会 府中市生涯学習センターボランティア ・ 9月 自主企画講座『「家族の絆」の行方ー揺れ動く社会の中でー」(全3回) ・ 10月 「楽学の会」のホームページ開設! ・ 10月 『社会教育委員会議答申・高齢者の生涯学習振興策』を学ぶ(区社会教育主事:高井正氏) ・ 11月 自主講座「NPO法人の作り方実務入門ー設立のメリット・デメリットから認証申請までー」(全3回) ・ 11月 「平成15年度足立区日本語ボランティア支援講座」(全8回)企画・開催事業を足立区 ・ 11月 月例会 楽学の会の健全な運営を進め、さらに会の発展を目的としグループ討論実施 ・ 1月 「生涯学習ボランティア養成セミナー」(全6回)の企画・開催事業を公社から受託 ・ 3月 「ボランティアコーディネーター研究集会」(主催:社会教育施設ボランティア交流会事務参加)
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 月例会 “これからの「楽学の会」への期待” 教育委員会 社会教育主事:森 太一氏 ・ 6月 月例会 講演「文化ボランティアと生涯学習」顧問 大久保邦子氏 ・ 8月 大田文化の森運営協議会との交流会・施設見学 ・ 9月 区民企画講座「女も男もエンパワーメントーめざせ現代のリーダー」(全3回) ・ 9月 月例会 会員から「ボランティア活動」の事例発表 ・ 9月 「会員のための パソコン研修会」(有料) ・ 10月 「生涯学習ボランティア養成セミナー」(全6回)企画・開催事業を公社から受託 ・ 10月 月例会「あだち区民大学塾」(試行)について:森 太一氏 ・ 11月 「平成16年度日本語ボランティア支援講座」(全8回)企画・開催事業を区から受託 ・ 1月 日本科学未来館との交流会 見学と交流会 ・ 2月 「生涯学習センターとボランティアについて考える交歓会」(会場:上郷 森のに参加 (顧問大久保邦子氏の呼びかけにより5団体が参加) ・ 2月 自主企画講座「その時どうなる?東京に大地震が起きる日ー過去から学び未来に備えるー」(全4回) ・ 3月 平成16年度「あだち区民大学塾」が開講(4講座実施) (区教育委員会生涯学習課,(財)足立区生涯学習振興公社,NPO法人「楽学の会」の共催) フォローアップ講座「住民がつくる生涯学習~住民主導の市民大学の事例を中心に」(講師:桜美林大学教授 瀬沼克彰氏)
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 通常総会開催 (組織の一部改正等) ・ 6月 あだちNPOまつり・2005「誰かのために何かがしたい」のパネラーに市川代表出講 ・ 6月 月例会「足立区生涯学習基本計画の策定に関する答申案」を学ぶ 森太一氏、市川代表 ・ 6月 「生涯学習ボランティア養成セミナー」(全6回)企画・開催事業を公社から受託 ・ 7月 「楽学ニュース」第100号特集号発行(テーマ「みんなに読んでもらえるニュースをして」) ・ 8月 「指定管理者制度学習会」を開催 全4回(平成18年4月終了) ・ 9月 月例会「会員等による「楽学の会」以外のボランティア活動の事例発表」 ・ 9月 平成17年度「あだち区民大学塾」第1ステージとして4講座開催 ・ 9月 共催講座「人生を楽しくするコミュニケーション力」(全5回) ・ 10月 「平成17年度ふるさとづくり賞振興奨励賞」受賞 ・ 10月 月例会「あだち区民大学塾の仕組み」 教育委員会:森係長 ・ 12月 「平成17年度日本語ボランティア支援講座」(全8回)企画・開催事業を足立区長から受託 ・ 12月 「あだち区民大学塾」第2ステージとして3講座開催 ・ 1月 鎌倉生涯学習推進委員会との交流会 ・ 2月 平成17年度あだち区民大学塾 第3ステージとして4講座開催 ・ 3月 自主企画講座「子どもを危険から守るには」(全4回) ・ 3月 「文化ボランティア全国フォーラム2006」(主催:全国フォーラム実行委員会)7名参加
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 通常総会開催 18年度役員選出(代表理事:早坂津夜子氏)(組織の一部改正ほか) ・ 5月 「楽学の会」創立10周年記念事業「あだち区民大学塾フォーラム」開催

「楽学の会」の活動状況(最近1年間)

今年度は23名の新会員が入会し、新風を吹き込みながら活動に参加し、会の活動に活気が漲った。

1. 各種講座・講演会等の学習支援活動

①「あだち区民大学塾」17年度10講座を開講。

～区民に大好評、企画運営を通じて会員の活動範囲が広がる！～



(大学塾運営ボラ活動/受付)

②自主企画講座～17年度2講座を開講。

- ◆「人生を楽しくするコミュニケーション力」
全5回(17.9月)
- ◆「子供を安全から守るには」
全4回(18.3月)

③受託講座事業

- ◆「17年度生涯学習ボランティア養成セミナー」
全6回(17.6月)
- ◆「17年度日本語ボランティアのための支援講座」
全8回(17.12月)



(養成セミナー終了新入会員歓迎会)

2. 足立区生涯学習センターの講座・講演会の開催事業への運営連携～区民の学習支援協力～

- ①17年度センター開催6講座、5講演会の運営全般
ボランティア活動(17/4～18/3)
- ②生涯学習に関する講座・講演会の開催情報を収集整理
～「学び見つけた」の作成支援～



(学習センター講座運営ボラ活動)

3. 生涯学習関連団体等とのネットワーク創り

①館外交流ネットワーク創り

- ◆柏市生涯学習団体との交流会(17.12月)
- ◆山形市生涯学習団体との交流会(17.12月)
- ◆鎌倉市生涯学習団体との交流会(18.1月)

②足立区NPO法人との交流・ネットワークを図る
(月1回)

③文化ボランティアフォーラム2006への参画
(18.3月)

～第4分科会「指定管理者制度って」にて学習事例発表～ (鎌倉市生涯学習団体との交流会)

④平成17年度(財)明日の日本を創る協会より「ふるさとづくり賞奨励賞」を受賞。

都内では「楽学の会」を含め2団体のみ。



4. 「楽学の会」会員への情報提供と会員相互の交流促進

- ①「楽学ニュース」の発行（年11回発行、18.5月109号）
- ②「楽学の会のホームページ」が更に充実。一会在が企画した講座・講演会等の事業情報を広くタイムリーに提供～
- ③「指定管理者制度学習会」の実施（全4回）
- ④月例会、部会、事務局会がほぼ毎月1回開催され学習支援ボランティアの多様な活動が行われた。

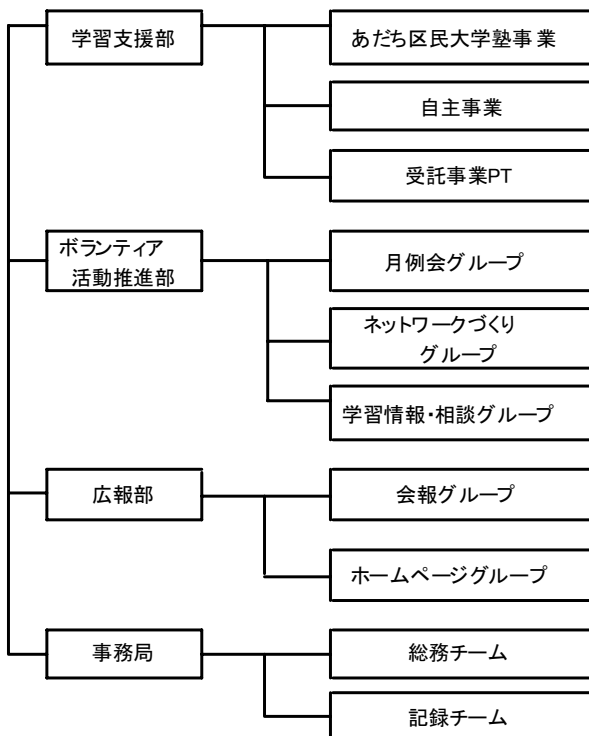


（楽学ニュース編集会議）

「楽学の会」の組織

改訂：平成18年5月12日

「楽学の会」の組織は平成18年5月12日に開催された通常総会において下図のように改訂されました。



[編集後記]

多くの皆様のご支援、ご協力を賜りましたお陰で、「楽学の会」創立10周年を迎えることができ、その記念事業の一環として、「楽学ニュース」特集号を編纂することができました。

顧みれば、この10年間は「楽学の会」の、これからの発展のための基礎づくりの時期であったと思います。種々の社会・環境の影響を受けながらもなんとか事業を推進させ無事10周年を迎えることができたのは、ひとえに関係者の皆様の温かいご支援のお陰と感謝しております。

これからも、ますます、社会的、地域的な課題に取り組み、一層の努力を行っていきたいと思います。

この「楽学ニュース」特集号発行にあたり、各方面の方々に多大な協力をいただきましたことに謝意を表します。

（小林徹）

